



かわせみ通信

7月号
2025年7月
Vol.191

発行所  株式会社 東海テクノ ECOLOGY & SCIENCE 本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号 (〒510-0023)
TEL.059-332-5122 (代) <https://www.tokai-techno.co.jp>

自然資本を守れ！～生物多様性から問われる経済と暮らしの持続可能性～

生物多様性という言葉が、ここ数年急速に注目を集めている。きっかけの一つは、2022年に採択された「昆明-モントリオール生物多様性枠組 (GBF)」だ。2030年までに地球の陸と海の30%を保護区域とする「30×30目標」が国際合意されたことで、かつては環境活動の一分野と見なされていた生物多様性が、国家政策や企業戦略の中心に浮上してきた。2025年には国連生物多様性条約第16回締約国会議 (COP16) がコロンビアで開催予定で、各国の進捗が問われる中、日本でも環境省主導で「ネイチャーポジティブ経済」への転換が進められている。

だが、生物多様性とは単なる自然保護運動ではない。多様な生物の存在は、水源涵養、病害虫の抑制、食料の安定供給といった「自然が提供するサービス」の基盤であり、それはすなわち経済活動や社会インフラの基盤でもある。農業では、単一品種に依存した栽培が病害や気候変動のリスクを高めており、在来種や有機的

な生態系管理の重要性が再認識されている。水資源では、森林・湿地・河川が連携して自然のダム機能を果たしており、都市防災にも直結する。企業にとっても、生物多様性は「環境リスク」ではなく「経営資源」である。

その一方で、国内外の課題は山積して



快適な生活との共存には課題山積

いる。OECDのレビューでは、日本は森林や都市部の保全には一定の成果があるが、農地や海洋では依然として圧力が強いと指摘された。また、保護区域の“面”の拡大だけでなく、質や管理体制、地域社会との連携が不十分であるという。資金面では、国際的には2030年までに年間2000億ドルの生物多様性ファイナンスが必要とされており、グリーンボンドや自然資本クレジットといった新たな資金調達スキームの整備が進むが、国内での普及は道半ばである。

私たちは今、自然との共存を理念で語る段階を越え、「どう守るか」「誰が担うか」という実務の段階に立っている。地域農業・漁業・林業の現場では、多様な生物とともに暮らしを営んできた知見があるが、担い手不足や制度の断絶がその継承を困難にしている。企業も自治体も、“儲かるか”ではなく“失えば何が止まるか”という視点で、自然との関係を再構築する必要があるのではないだろうか。

東海テクノからのお知らせ

① PFAS多項目分析が可能となりました

近年、PFAS (有機フッ素化合物) が世界中で問題視されています。PFASはペルフルオロアルキル化合物とポリフルオロアルキル化合物の総称で、1万種類以上が存在すると言われています。

現在、日本での規制対象はPFOS、PFOA、PFHxSの3種で、これらは化審法により、製造、使用、輸入が原則禁止されています。特に水道水は、これまで要監視項目だったPFOSとPFOAが、2026年4月1日からは水質基準項目へ格上げされ、より厳しい基準値が設定されます。これにより、3ヶ月に1度の定期的な分析が義務化されるほか、「水質汚濁に係る人の健康の保護に関する要監視項目」においても、暫定指針値から指針値へと変更されます。このような状況を踏まえ、当社では国際標準規格ISO 21675に試験法が確立された計30項目のPFASについて、自社での分析を可能としました。今後増加するPFAS分析の需要に対応するため、LC/MS/MS装置を増設し、2台体制で迅速な分析をご提供いたします。将来的に、現時点では規制対象ではないPFASについても新たな基準値が設けられる可能性は十分にあります。PFAS多項目分析をご検討の際は、ぜひ一度弊社の営業員までご相談ください。

<https://www.tokai-techno.co.jp/product-service/er-analysis/pfas/multiple-items/>

② 「AnySight」論文発表を行い、専用サイトも完成しました

この度、2025年4月に「一般財団法人日本環境測定分析協会」の「環境と測定技術 No.4」に、当社の革新的な近赤外線分析ソリューション「AnySight」に関する研究が掲載されました。

「AnySight」は、『手のひらで解決。持ち運べる分析ラボ。』をコンセプトに、持ち運び可能な小型NIRセンサーを用いた分析ソリューションです。2024年11月の本通信でもご紹介しましたが、現場で誰でも簡単に、わずか5秒で高精度な成分分析を非破壊で行えることが特長です。

専用検量モデルによる精度向上に加え、複数成分の同時測定や、複雑な前処理・専門知識が不要な簡便な操作性により、お客様のコスト削減と業務効率化に貢献します。セルロス濃度の測定に限定せず、製造業の品質管理、畜産業での栄養成分測定など、様々な分野の定量分析や定性分析にも応用が可能であるため、幅広い分野での活用を提案していきたいと考えております。AnySightはサブスクリプションモデルで提供しており、お客様のニーズに合わせた柔軟なご利用が可能です。商品説明をご要望のお客様はぜひ当社へお問い合わせください。



●AnySight 公式ウェブサイト <https://anysight.jp>

社員プチコラム

背戸 美紗代 (環境事業部 ラボGr)

暑い季節が始まりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。先日、趣味のドライブへ出かけたとこ、津から志摩へ向かう山道の途中に鍾乳洞を見つけました。立て看板と梯子もあり入ってみました。涼しい風が地下から吹き上げ、天井からは落ちてくる地下水が冷たい池を作っていて暑さも吹き飛んでしまいました。写真は鍾乳洞の中で撮ったものです。海や川、屋内施設で涼むのも良いですが、天然のエアコンで体を冷やしてみるのもいかがでしょうか。



編集後記

AGTS農業展では、多くの方に当社ブースへお越しいただきありがとうございました。東海地域は野菜や花きの施設園芸が盛んで、全国有数の産出額を誇りますが、今年の猛暑による農作物の生育不良や収量減少による食料価格上昇が懸念されます。環境分析を主軸とする当社ですが、そんな状況に少しでも役立つことは出来ないかと、農業分野での分析機器の活用を模索し、課題解決にも貢献していきたいと考えています。(みっちー)

